

7.29 (体験)

アイロンビーズで雪の結晶をつくろう

大鐘 卓哉 (小樽市総合博物館)

キーワード：雪の結晶，六角形

色々な形をした雪の結晶は六角形の形が基本になっています。中心から六方向に成長した枝や六角形の角板が特徴です。そこで、六角形の台座の上にアイロンビーズを並べると、雪の結晶のような形のオリジナルアクセサリーをつくることができます。

手順：

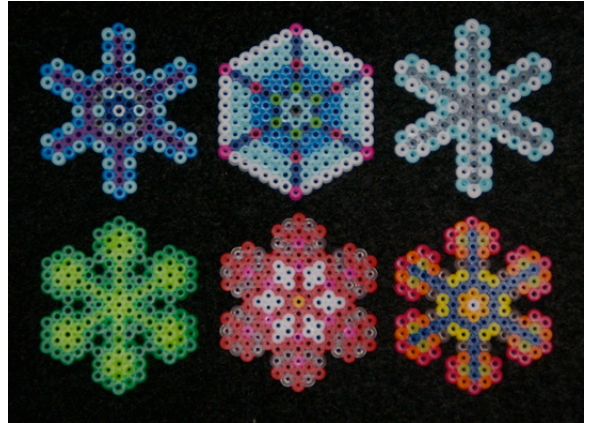
六角形の台座の上に、以下のことに気をつけてアイロンビーズを並べましょう。

- ・ 中心から六方向に対称
- ・ 六方向の枝のそれぞれが左右対称
- ・ 枝から分かれる小枝の角度は60度

ビーズの上にシートをかぶせ、アイロンの熱でビーズを溶かしてつなげましょう。

注意：

ビーズをアイロンで熱するときには火傷しないように気をつけましょう。



7.30 (体験)

雪中キャンプ：スノーヒュッテや簡易雪洞作り

秋田谷 英次 (北の生活館・雪氷ネットワーク)，中村 一樹 (日本気象協会北海道支社)

キーワード：積雪は建築材，断熱材

雪の中でキャンプをしてみませんか。冬山登山や探検家は冬用のテントでキャンプをします。テントのかわりに雪を使ってみましょう。昔、エスキモーは氷の家(イグルー)で暮らしていました。圧縮した雪は硬くなり建築材料にもなります。硬くなった雪でも隙間があり、そこには空気があるので断熱材にもなります。砂漠の砂で家は造れませんが、雪の原っぱでは作れます。写真のようなイグルーの製作は時間がかかるので簡単な雪洞を作って見ませんか。

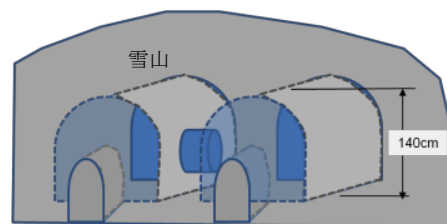
連結雪洞：雪洞(かまくら)は雪山に横穴を掘ったものです。大きいのは難しいので小さな雪洞をトンネルで連結します。隣の雪洞の人と会話ができ、物の移動もできます。

簡易雪洞：雪が少ない地方では、横穴も掘れないので雪のブロックを積んで壁を作り、天井に棒を渡してブルーシートを載せます。

注意：雪洞は体積が小さいほど暖かいです。天井の高さは立って歩けなくても構いません。床にはシートを敷き、その上にむしろや段ボールを敷くと良いでしょう。



イグルー



2つの連結雪洞。4人用×2個